

【久留米大学人間健康学部】
履歴書の作成について

1. 免許・学位について

教員免許状、学位記等の資格を記載する場合、発行者（〇〇県教育委員会、〇〇大学等）・登録番号等を明記下さい。

記載例：高等学校教諭一種普通免許状（保健体育）（〇〇県教育委員会 平〇高一普第〇号）

【久留米大学人間健康学部】
研究業績書の作成について

1. 研究業績書作成の参考として、研究業績書の記入例をご利用下さい。

全ての業績をご記入下さい。ただし、卒業論文、修士論文、研究助成などの報告書については、記載の必要はございません。

2. 業績は過去のものから順にご記入下さい。原則として、著書、学術論文、学会発表、その他の順に区分してご記入下さい。区分ごとに一連番号を付して下さい。

3. 研究業績書について

3-1) 著書・学術論文等の名称：著書について

書名、単著・共著の別、発行年月日、発行所、全頁数と担当頁範囲をご記入下さい。

共著（分担執筆）の場合は、編集者あるいは監修者のあとに「編」、「監」、あるいは「編著」と表記下さい。（英文では編集者が1人の場合は（Ed.）、複数の場合は（Eds.）。共著者（分担執筆者）の氏名記載の必要はありません。

3-2) 著書・学術論文等の名称：学術論文について

・査読について

査読を経て掲載された論文については先頭の通し番号に括弧を付けて下さい。例：[1]

・単著、共著について

区分を明記下さい。論文等で共著者がいる場合は概要欄に第一著者から順にご記入いただき、本人の氏名には下線を付して下さい。共著者が4名以上の場合には、3番目の氏名の後、「他〇名」と明記下さい。本人が著者の3番目以降に該当される場合は、何番目か明記下さい。

また、本人の担当部分を明記してください。なお、担当部分が抽出不可能な場合は、その旨記載してください。

・発行所・発表雑誌等の名称について

題名、雑誌名（編集者：日本体育学会編など）、巻、号、頁範囲を明記下さい。ただし、紀要等、編集者や発行所が明確な場合には編集者名は不要です。

・博士論文の場合は、「〇〇〇（博士論文）」として、その旨ご記入下さい。

・提出する主要論文には、No.に〇を付して下さい。

・刊行予定、未印刷の論文等は、受理済、印刷中等を明記し、出版社・論文編集委員会の証明書を添

えて提出すれば、業績としてカウント出来ます。

3-3) 著書・学术论文等の名称：学会発表について

当該発表テーマ、単独・共同の別、発表の年月日、学会大会名に加え、開催場所等をご記入下さい。
(後述する、指導実績等についても同様)。

3-4) 著書・学术论文等の名称：その他について

以下の業績についてご記入下さい。記載方法は、著書等に準じます。

- ① 翻訳書 ② 競技・指導実績、発表作品（実技系） ③ 商業誌
④ 辞典等の項目執筆 ⑤ 実務の経験 など

【久留米大学人間健康学部】

学会および社会における活動等の作成について

1. 学会および社会における活動等について

- ①所属している学会の名称及び役職
②教育研究上の業績（公開講座等の講師など）を記入下さい。

【久留米大学人間健康学部】

大学の管理運営に関する事項の作成について

1. 大学の管理運営に関する事項について

担当された委員会活動について記入下さい。

【久留米大学人間健康学部】

教育活動に関する事項の作成について

1. 教育活動に関する事項について

担当された授業科目名、受講者数等について記入下さい。

【久留米大学人間健康学部】

競争的研究費獲得実績書の作成について

1. 競争的研究費獲得実績書について

様式1に明記下さい。

- ① 分担金額は個人に配分された金額をご記入下さい。個人に配分されていない場合は、総額を研究者数で割り、1人当たりの金額を算出下さい。
② 複数年度にわたり採択された研究種目は、各年度に配分された金額をご記入下さい。複数年度分が一括して配分されている場合は、配分年数で割った金額をそれぞれの年度に明記下さい。

研究業績書 <記入例>

2022年2月1日

氏名 久留米 太郎 印

No.	著書・学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は発表の 年月日（西暦）	発行所・発表雑誌等 の名称・巻・号・頁	概要（200字以内） 共著・分担執筆の場合は分担部分の頁と共著者名
	<著書>				
1	久留米大学考	共著	2019年4月1日	久留米大学出版会 全250頁 (分担：100-150頁)	著者：〇〇、□□、 <u>久留米太郎</u> 、他〇名 久留米大学の創設から現在までの・・・を考察した。 (分担：第6～10章)
2	教育学・・・	共著	2021年1月10日	〇〇出版 全100p (分担：50-62頁)	編者：筑後太郎、著者：〇〇、□□、 <u>久留米太郎</u> 、他〇名 教育について・・・第3章 共同学習の方法について・・・ (分担：第3章)
	<学術論文>				
[1]	〇〇についての研究	共著	2018年4月1日	〇〇研究（〇〇学会編） 第5巻第2号10-25頁	著者：久留米花子,筑後太郎,筑後花子、他1名（4番目） □から▲までの・・・を考察した。 (共同研究につき、本人の担当部分抽出不可能)
[2]	●●についての研究	共著	2019年10月1日	●●研究（〇〇学会編） 第25巻第1号100-130頁	著者： <u>久留米太郎</u> ,筑後太郎 ▽から▲までの・・・を比較検討した。 (共同研究につき、本人の担当部分抽出不可能)
[3]	▲▲についての研究	単著	2020年4月1日	▲▲大学大学院博士論文 〇〇頁	◇から▲までの・・・を考察した。
[4]	★★の効果	単著	2021年10月1日	★★大学☆☆学部紀要, 第1号50-55頁	◆から▲までの・・・を検討した。
	<学会発表>				
1	～～について	単	2018年12月1日	〇〇学会記念大会 (久留米大学)	～～についての検討、検証。
2	@@の効果	共	2019年10月1日	第50回日本@@学会 (東京大学)	共同発表者： <u>久留米太郎</u> , 久留米花子 @@の効果、検証。 (共同研究につき、本人の担当部分抽出不可能)